

第 46 回 荒川区政世論調査

《概要版》

荒川区では、区民の皆様のご意見やご要望を区政に反映するため、毎年、区政世論調査を実施しています。この調査によって得られた結果は、適切に把握・分析した上で、すべての区民の皆様に幸福を実感していただける、よりよい区政運営のための基礎資料として活用してまいります。併せて多くの皆様に参考にしていただければ幸いです。

調査の実施に当たり、ご協力くださいました区民並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

荒川区区政広報部秘書課

◆調査の概要

◇ 調査対象	区内在住の満 18 歳以上の個人	◇ 配布方法	郵送配布
◇ 対象者数	3,000 人	◇ 回収方法	郵送または電子申請による回収
◇ 抽出方法	層化 2 段階無作為抽出	◇ 有効回収数 (率)	1,356 件 (45.2%)
◇ 調査期間	令和 3 年 11 月 26 日 ～令和 3 年 12 月 31 日		

◆調査内容と主な調査結果

【居住と生活環境】住み続けたいと回答した方は 8 割半ばを超えている。

【多様性の推進】性的マイノリティ (性的少数者) の人権を尊重するために必要な取組について、「学校現場や職場における理解の推進」と回答した方が 5 割半ばを超えている。

【地域とのつながり・暮らし】地域行事や活動に参加している方は 3 割である。

【防災対策】災害用トイレの備蓄をしている方は 4 割弱、備蓄をしていない方は 6 割弱である。

【生涯学習活動】この 1 年間に学習・活動しなかったと回答した方は 5 割強である。

【環境問題】環境対策として充実・拡大すべき取組は、ポイ捨てや歩きたばこ対策の強化が 4 割半ば近くである。

【喫煙マナー】路上喫煙禁止地区における行動や考え方では、「禁止地区なので吸うことはない」と回答した方が 4 割半ば近くで最も高く、次いで「禁止地区なので我慢した」が 2 割強である。

【子どもの権利】力を入れるべき取組について、「子どもが安心して相談したり意見を言える仕組みづくり」と回答した方が 7 割である。

【区政への関心と要望】区政への関心度は、関心があると回答した方が 6 割弱である。

◆概要版の見方

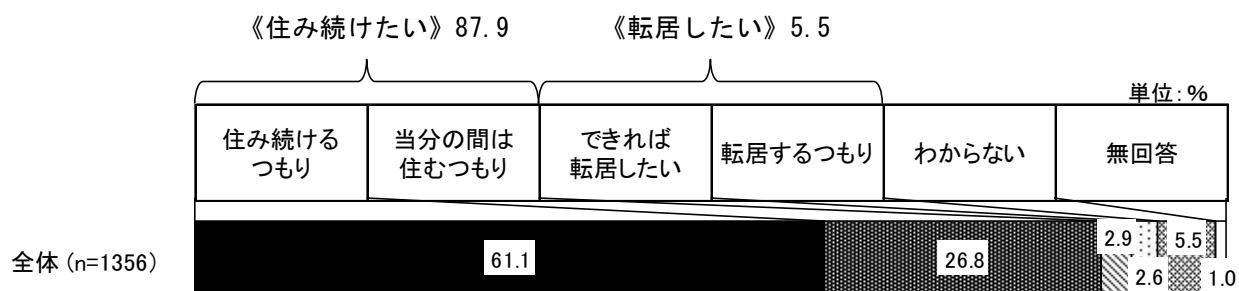
- ☆ 図中の「n」は、その設問の回答者数を表しています。
- ☆ 小数点第2位を四捨五入したため、回答率を合計しても100%にならないものもあります。
- ☆ 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数としたため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがあります。
- ☆ 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によって語句を簡略化してあります。
- ☆ ライフステージは、以下の定義に従って区分しています。
 - ・家族形成期 「39歳以下で同居している子どものいない夫婦」または「同居している一番上の子どもが小学校入学前」
 - ・家族成長前期 「同居している一番上の子どもが小・中学生」
 - ・家族成長後期 「同居している一番上の子どもが高校・大学生」
 - ・家族成熟期 「64歳以下で同居している一番上の子どもが学校卒業」
 - ・高齢期 「65歳以上で同居している一番上の子どもが学校卒業」または「65歳以上で同居している子どもはいない」
 - ・高齢期(一人暮らし) 「65歳以上で一人暮らし」
 - ・一人暮らし 「64歳以下で一人暮らし」

この概要版は、荒川区政世論調査報告書を抜粋し、まとめたものです。報告書全文は、区役所地下1階の情報提供コーナーや各区立図書館、荒川区ホームページでご覧いただけます。

1. 居住と生活環境 【継続調査項目】

設問：これからも荒川区にお住まいになりますか。（回答は1つ）

「住み続けるつもり」（61.1%）と「当分の間は住むつもり」（26.8%）を合わせた《住み続けたい》（87.9%）の割合が8割半ばを超え、高い割合を示している。

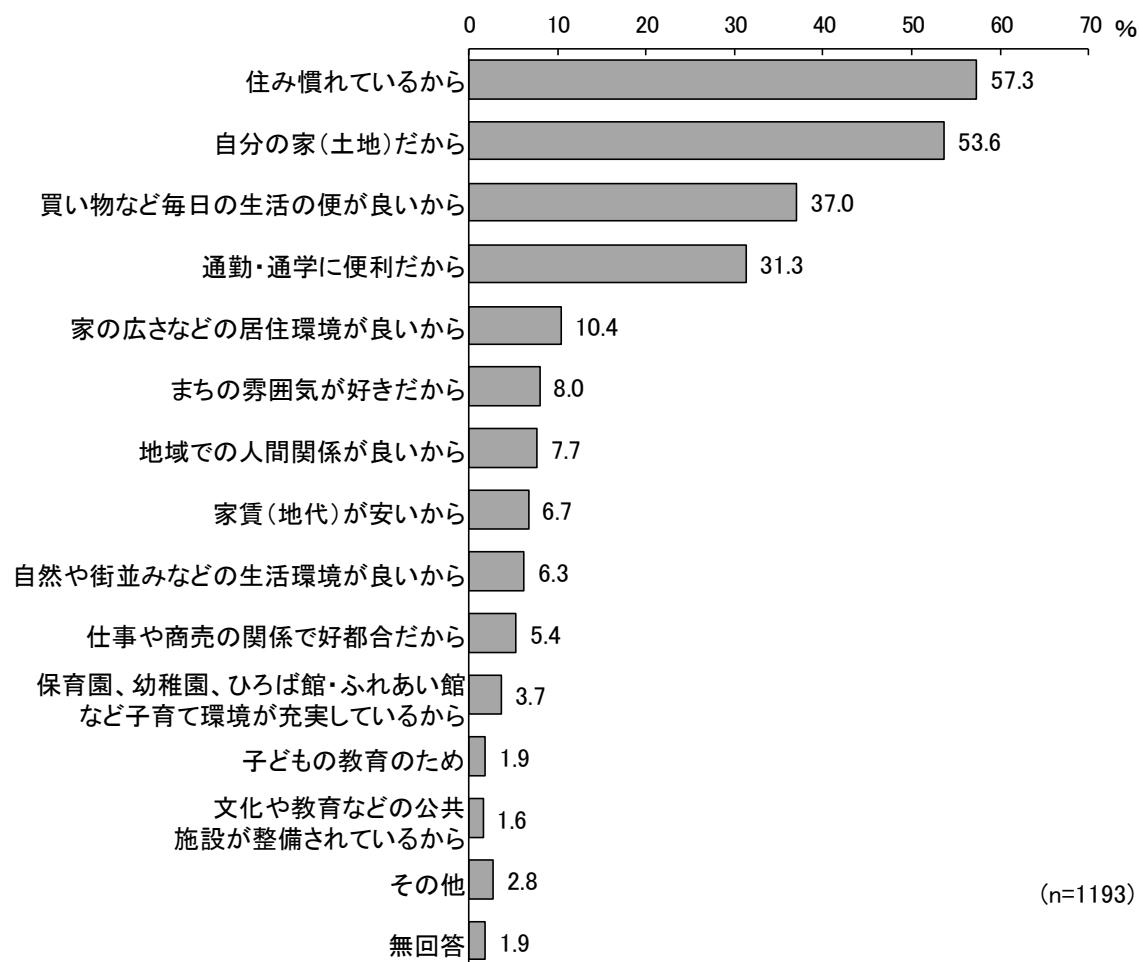


※昨年度

住み続けるつもり	59.7	87.5
当分の間は住むつもり	27.8	
できれば転居したい	2.7	5.7
転居するつもり	3.0	

設問：《住み続けたいとお答えの方に》その主な理由は何ですか。（回答は3つまで）

「住み慣れているから」（57.3%）が5割半ばを超え最も高く、次いで「自分の家（土地）だから」（53.6%）、「買い物など毎日の生活の便が良いから」（37.0%）、「通勤・通学に便利だから」（31.3%）が比較的高くなっている。



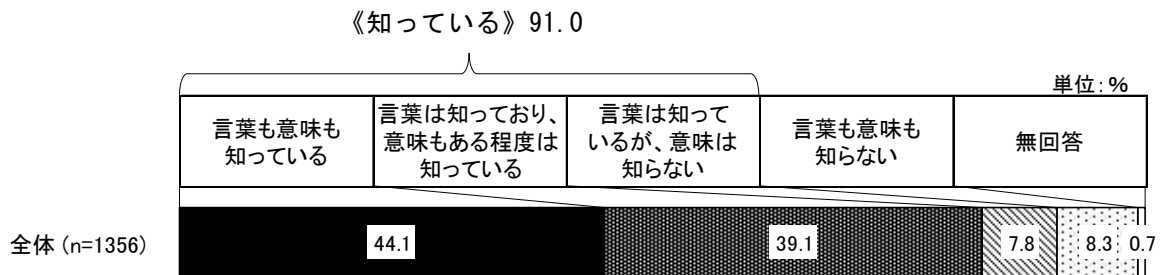
※昨年度（上位5項目）

住み慣れているから	55.8
自分の家（土地）だから	51.7
買い物など毎日の生活の便が良いから	33.9
通勤・通学に便利だから	33.2
家の広さなどの居住環境が良いから	9.4

2. 多様性の推進 【各部依頼調査項目】

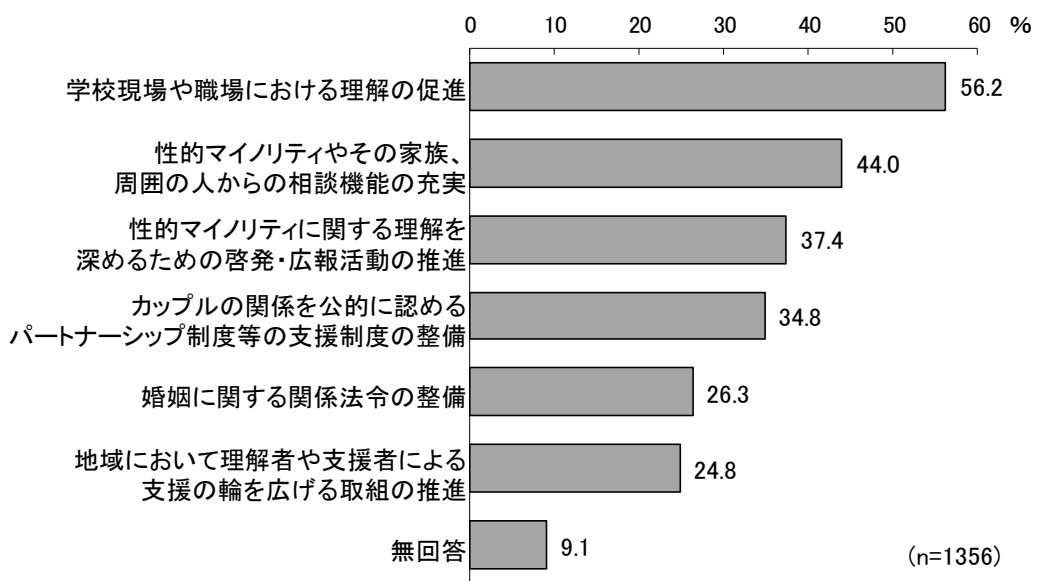
設問：性的マイノリティ（性的少数者）やLGBT（LGBTQ）という言葉とその意味を知っていますか。（回答は1つ）

「言葉も意味も知っている」（44.1%）、「言葉は知っており、意味もある程度は知っている」（39.1%）、「言葉は知っているが、意味は知らない」（7.8%）を合わせた《知っている》は9割強と大半を占めている。



設問：性的マイノリティ（性的少数者）への配慮・支援に関し、人権を尊重するためにどのような取組が必要だと考えますか。（回答は4つまで）

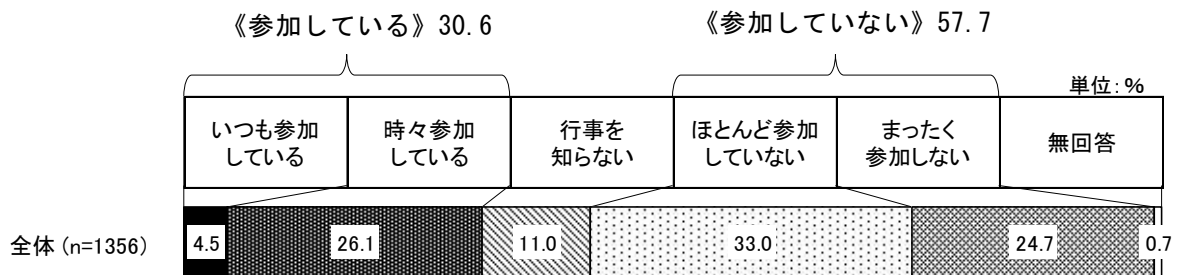
「学校現場や職場における理解の促進」（56.2%）が5割半ばを超え最も高く、「性的マイノリティやその家族、周囲の人からの相談機能の充実」（44.0%）、「性的マイノリティに関する理解を深めるための啓発・広報活動の推進」（37.4%）、「カップルの関係を公的に認めるパートナーシップ制度等の支援制度の整備」（34.8%）が比較的高くなっている。



3. 地域とのつながり・暮らし 【各部依頼調査項目】

設問：あなたは、地域の行事や活動に参加していますか。（回答は1つ）

「いつも参加している」（4.5%）と「時々参加している」（26.1%）を合わせた《参加している》（30.6%）は3割となっている。一方、「ほとんど参加していない」（33.0%）と「まったく参加しない」（24.7%）をあわせた、《参加していない》（57.7%）は5割半ばを超えている。



※令和元年度調査

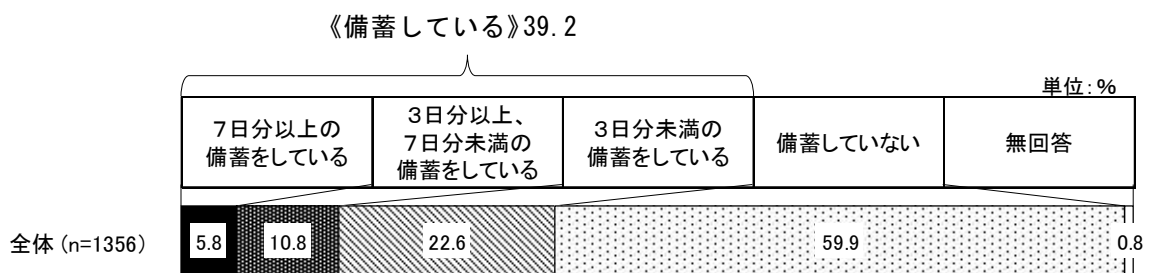
いつも参加している	6.5	38.3
時々参加している	31.8	
ほとんど参加していない	31.6	55.0
まったく参加しない	23.4	

4. 防災対策 【各部依頼調査項目】

設問：トイレの平均回数は大人1日5回ですが、あなたの家庭では、災害用トイレ（携帯トイレ、簡易トイレ）を何日分備蓄していますか。（回答は1つ）

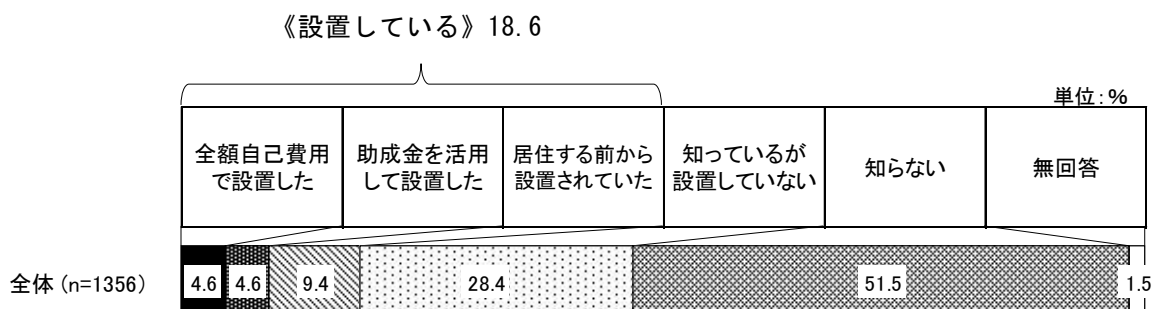
「備蓄していない」（59.9%）が6割弱で最も高く、次いで「3日分未満の備蓄をしている」（22.6%）、「3日以上、7日分未満の備蓄をしている」（10.8%）と続いている。

「7日分以上の備蓄をしている」（5.8%）、「3日以上、7日分未満の備蓄をしている」（10.8%）と「3日分未満の備蓄をしている」（22.6%）を合わせた《備蓄をしている》（39.2%）の割合は4割弱となっている。



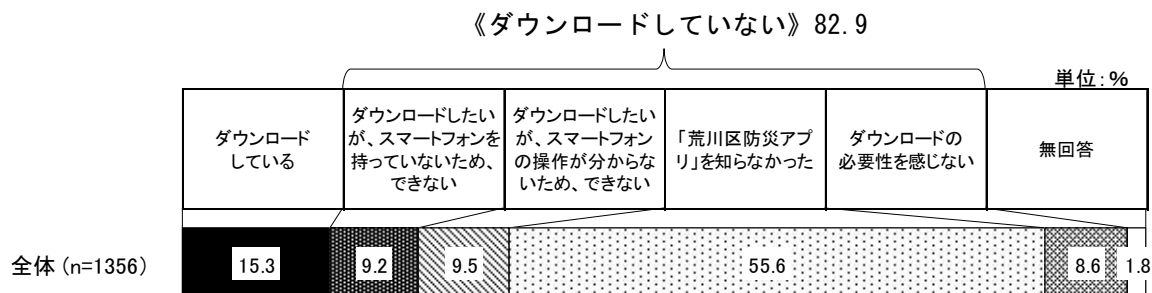
設問：地震発生時の通電火災を防ぐために、強い揺れを感知したときに電気を自動的に止める「感震ブレーカー」という装置の設置状況についてお答えください。（回答は1つ）

「全額自己費用で設置した」（4.6%）、「助成金を活用して設置した」（4.6%）と「居住する前から設置されていた」（9.4%）を合わせた《設置している》（18.6%）は2割近くである。一方、「知っているが設置していない」（28.4%）が3割近く、「知らない」（51.5%）が5割強となっている。



設問：「荒川区防災アプリ」をダウンロードしていますか。（回答は1つ）

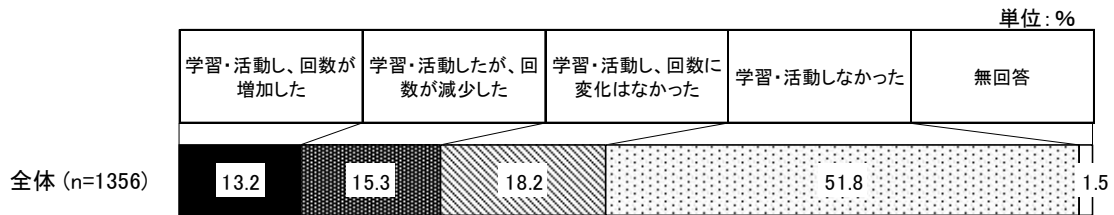
「ダウンロードしている」(15.3%)は1割半ばにとどまっている。「ダウンロードしたいが、スマートフォンを持っていないため、できない」(9.2%)、「ダウンロードしたいが、スマートフォンの操作が分からないため、できない」(9.5%)、「荒川区防災アプリ」を知らなかった」(55.6%)、「ダウンロードの必要性を感じない」(8.6%)を合わせた《ダウンロードしていない》(82.9%)は8割強となっている。



5. 生涯学習活動 【各部依頼調査項目】

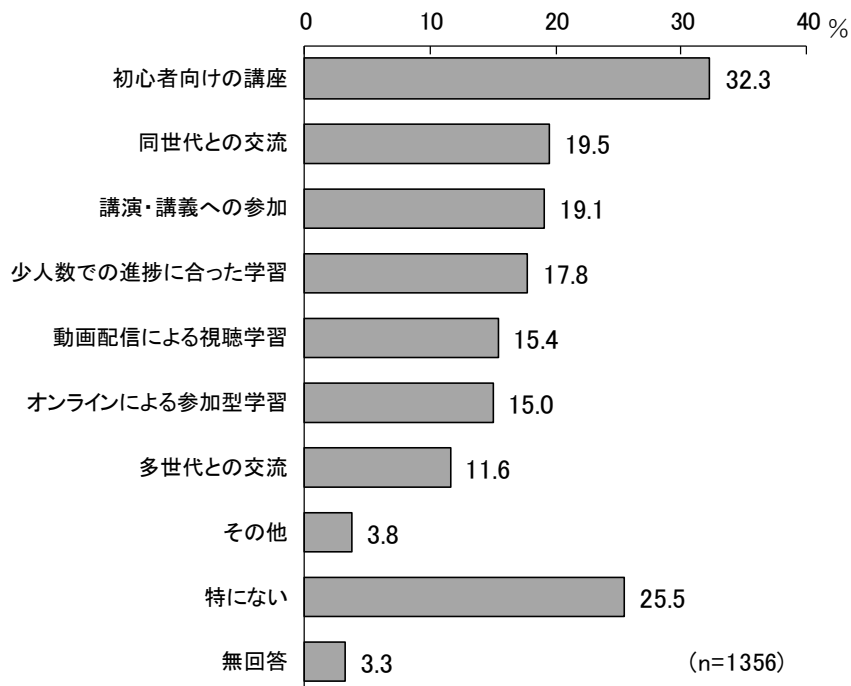
設問：あなたはこの1年間に学習・活動をしましたか。また、その回数に変化がありましたか。
(回答は1つ)

「学習・活動しなかった」(51.8%)が5割強と最も高く、次いで「学習・活動し、回数に変化はなかった」(18.2%)が2割近く、「学習・活動したが、回数が減少した」(15.3%)が1割半ばとなっている。



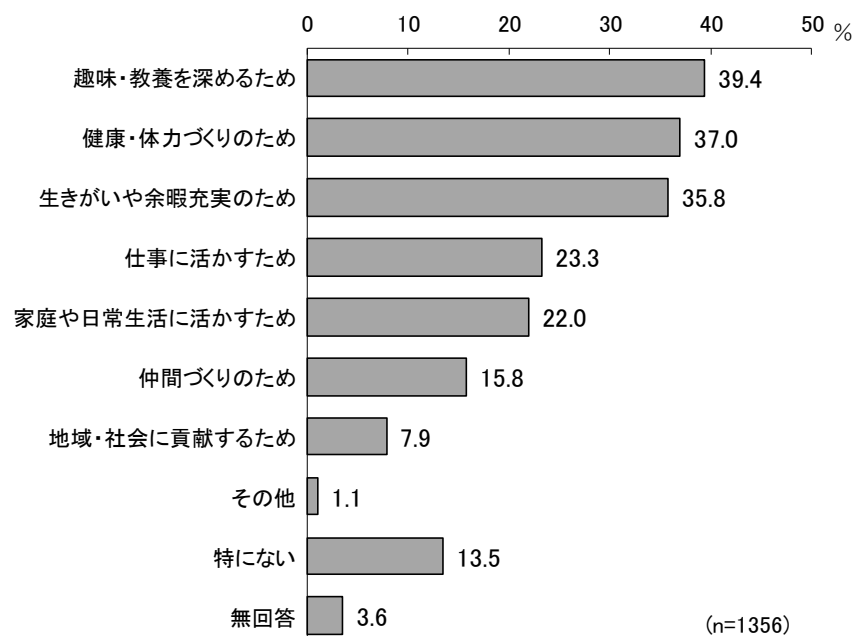
設問：あなたはどのような環境や機会があれば、学習・活動に参加してみたいと思いますか。
(回答は3つまで)

学習・活動への参加動機について聞いたところ、「初心者向けの講座」(32.3%)が3割強と最も高く、次いで「同世代との交流」(19.5%)、「講演・講義への参加」(19.1%)が2割弱となっている。



設問：あなたが学習・活動を行う目的は何ですか。（回答は3つまで）

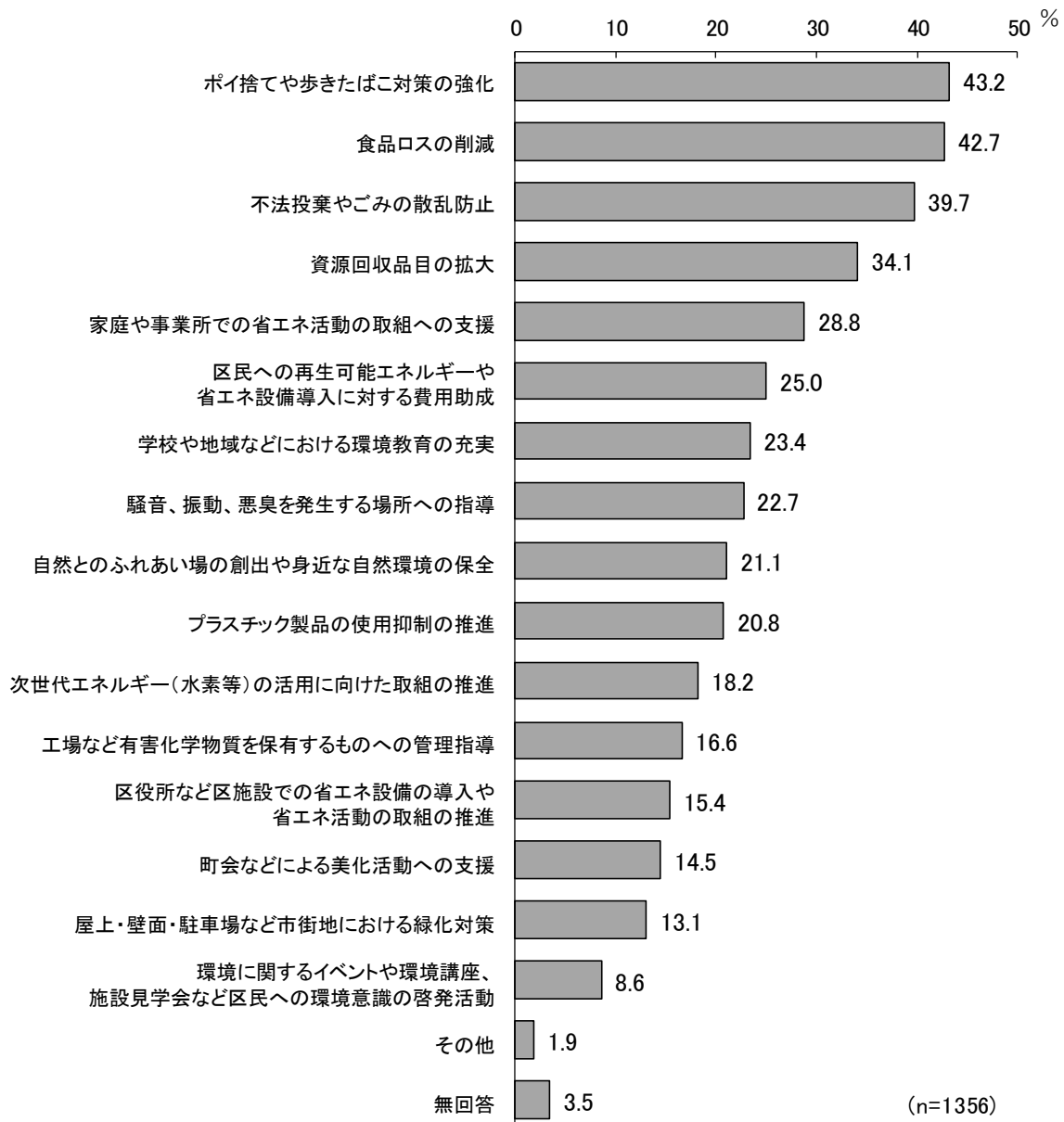
「趣味・教養を深めるため」(39.4%)が4割弱と最も高く、次いで「健康・体力づくりのため」(37.0%)が3割半ばを超え、「生きがいや余暇充実のため」(35.8%)が3割半ばとなっている。



6. 環境問題 【各部依頼調査項目】

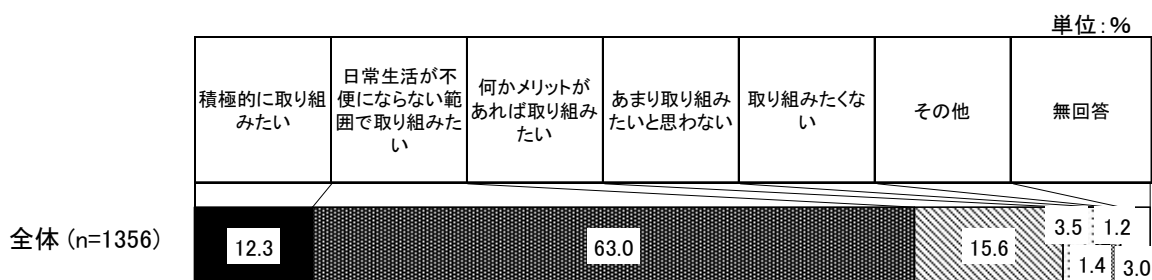
設問：あなたは、荒川区の環境対策として、どのような取組を充実・拡大していくのがよいと考えますか。（回答はいくつでも）

「ポイ捨てや歩きたばこ対策の強化」（43.2%）が4割半ば近くと最も高く、次いで「食品ロスの削減」（42.7%）が4割強、「不法投棄やごみの散乱防止」（39.7%）が4割弱となっている。



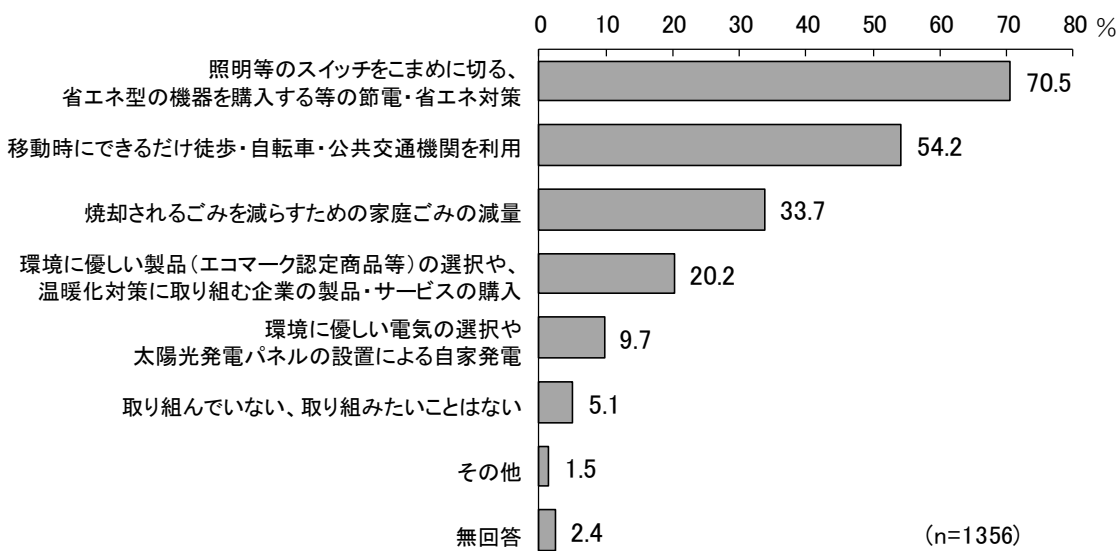
設問：「脱炭素社会」の実現に向けた各家庭での取組について、あなたの考えに最も近いものを次の中から一つお選びください。（回答は1つだけ）

「日常生活が不便にならない範囲で取り組みたい」（63.0%）が6割半ば近くと最も高く、次いで「何かメリットがあれば取り組みたい」（15.6%）が1割半ば、「積極的に取り組みたい」（12.3%）が1割強となっている。



設問：「脱炭素社会」の実現に向けて、あなたが日常生活の中で取り組んでいること、または今後取り組むことを検討していることは何ですか。（回答はいくつでも）

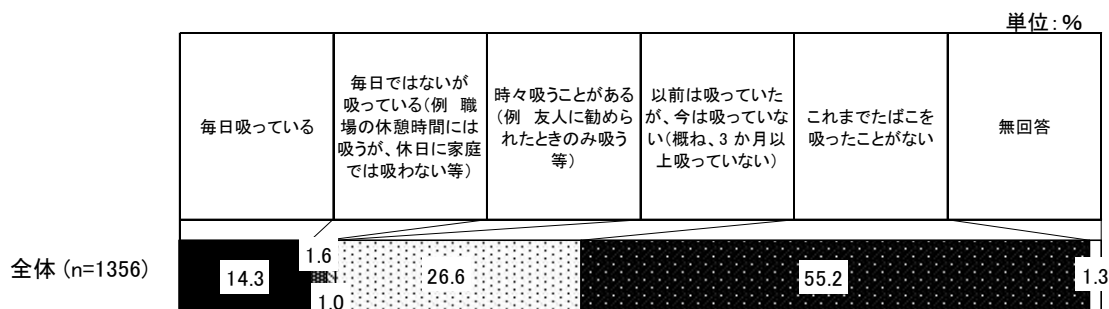
「照明等のスイッチをこまめに切る、省エネ型の機器を購入する等の節電・省エネ対策」（70.5%）が7割と最も高く、次いで「移動時にできるだけ徒歩・自転車・公共交通機関を利用」（54.2%）が5割半ば近く、「焼却されるごみを減らすための家庭ごみの減量」（33.7%）が3割半ば近くとなっている。



7. 喫煙マナー 【各部依頼調査項目】

設問：あなたは、たばこを吸いますか。（回答は1つだけ）

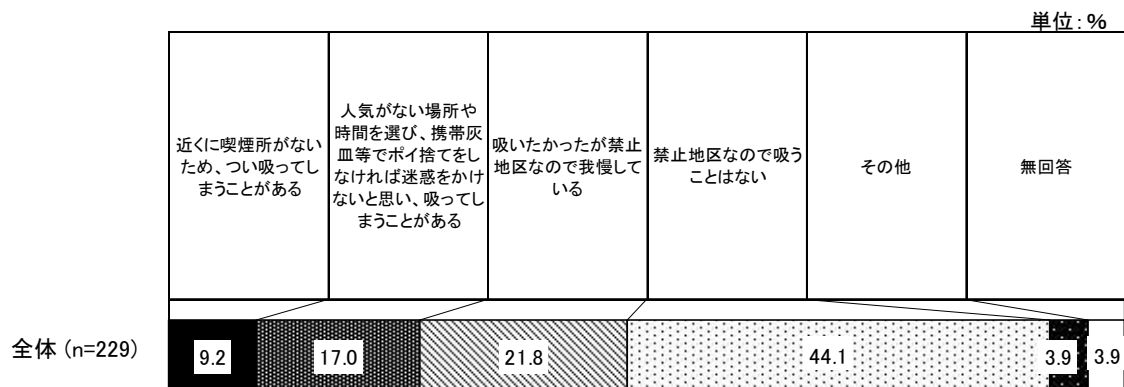
喫煙の有無について聞いたところ、「これまでたばこを吸ったことがない」（55.2%）が5割半ばと最も高く、次いで「以前は吸っていたが、今は吸っていない（概ね、3か月以上吸っていない）」（26.6%）が2割半ばを超え、「毎日吸っている」（14.3%）が1割半ば近くとなっている。



設問：《たばこを吸われる方に》

路上喫煙禁止地区におけるあなたの行動や考え方について、最も近いものを1つ選んでください。（回答は1つ）

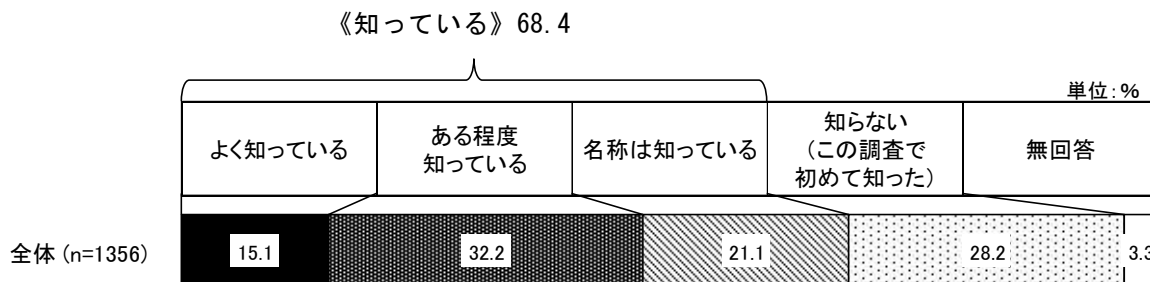
路上喫煙禁止地区における行動や考え方について聞いたところ、「禁止地区なので吸うことはない」（44.1%）が4割半ば近くと最も高く、次いで「吸いたかったが禁止地区なので我慢している」（21.8%）が2割強、「人気がない場所や時間を選び、携帯灰皿等でポイ捨てをしなければ迷惑をかけないと思ひ、吸ってしまうことがある」（17.0%）が1割半ばを超えている。



8. 子どもの権利 【各部依頼調査項目】

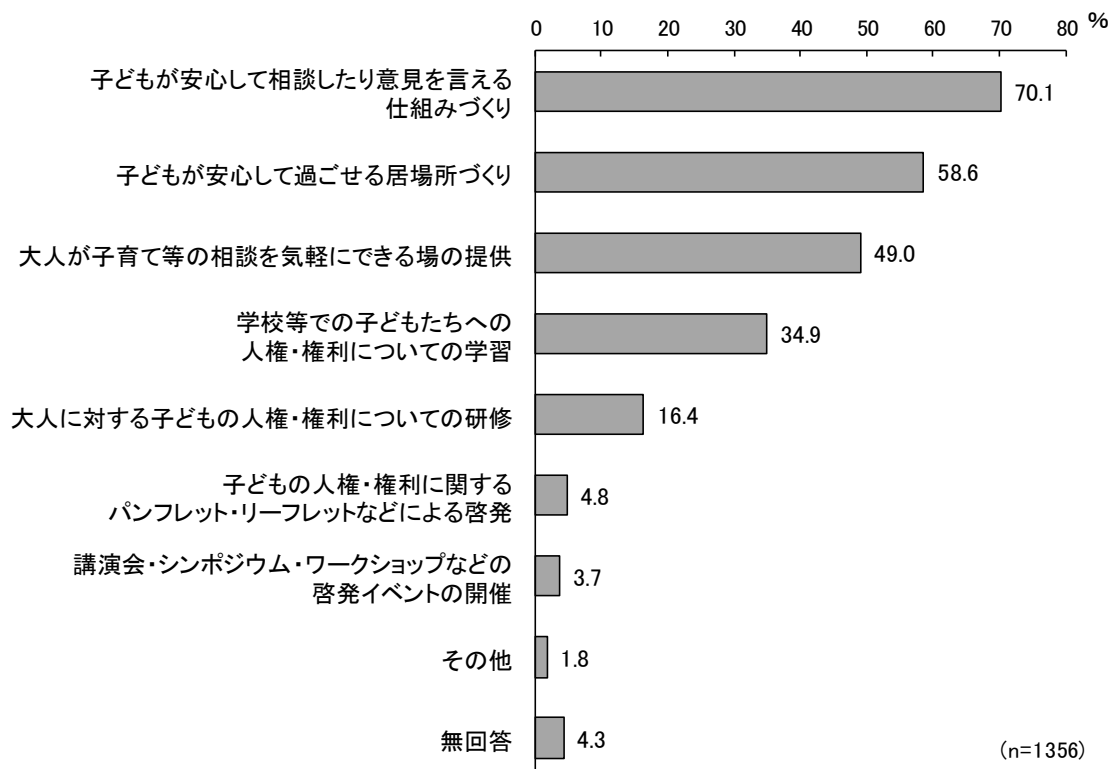
設問：あなたは「児童に関する権利条約（子どもの権利条約）4つの権利：①生きる権利 ②育つ権利 ③守られる権利 ④参加する権利」を知っていますか。（回答は1つだけ）

「よく知っている」（15.1%）「ある程度知っている」（32.2%）と「名称は知っている」（21.1%）を合わせた《知っている》（68.4%）は7割近くとなっている。一方、「知らない（この調査で初めて知った）」（28.2%）は3割近くを占めている。



設問：子どもの人権・権利を守るためには、どのような取組に力を入れるべきだと思いますか。（回答は3つまで）

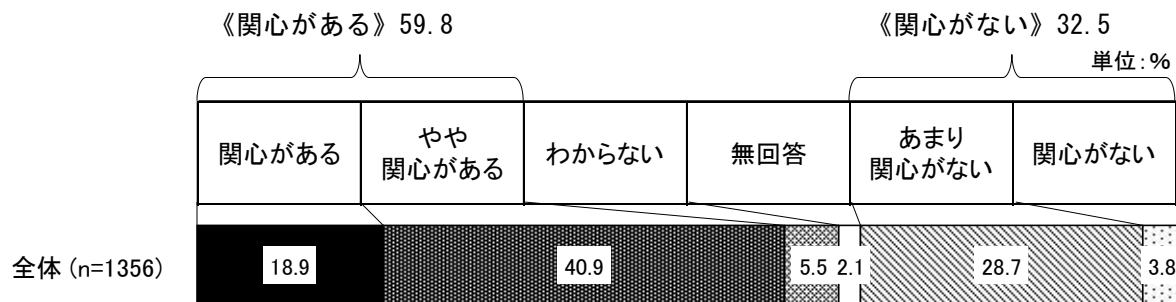
「子どもが安心して相談したり意見を言える仕組みづくり」（70.1%）が7割と最も高く、次いで「子どもが安心して過ごせる居場所づくり」（58.6%）、「大人が子育て等の相談を気軽にできる場の提供」（49.0%）が比較的高くなっている。



9. 区政への関心と要望 【継続調査項目】

設問：あなたは、区政にどの程度関心がありますか。（回答は1つ）

「関心がある」（18.9%）と「やや関心がある」（40.9%）を合わせた《関心がある》（59.8%）は6割弱となっており、一方、「あまり関心がない」（28.7%）と「関心がない」（3.8%）を合わせた《関心がない》（32.5%）は3割強で、《関心がある》との差は27.3ポイントとなっている。

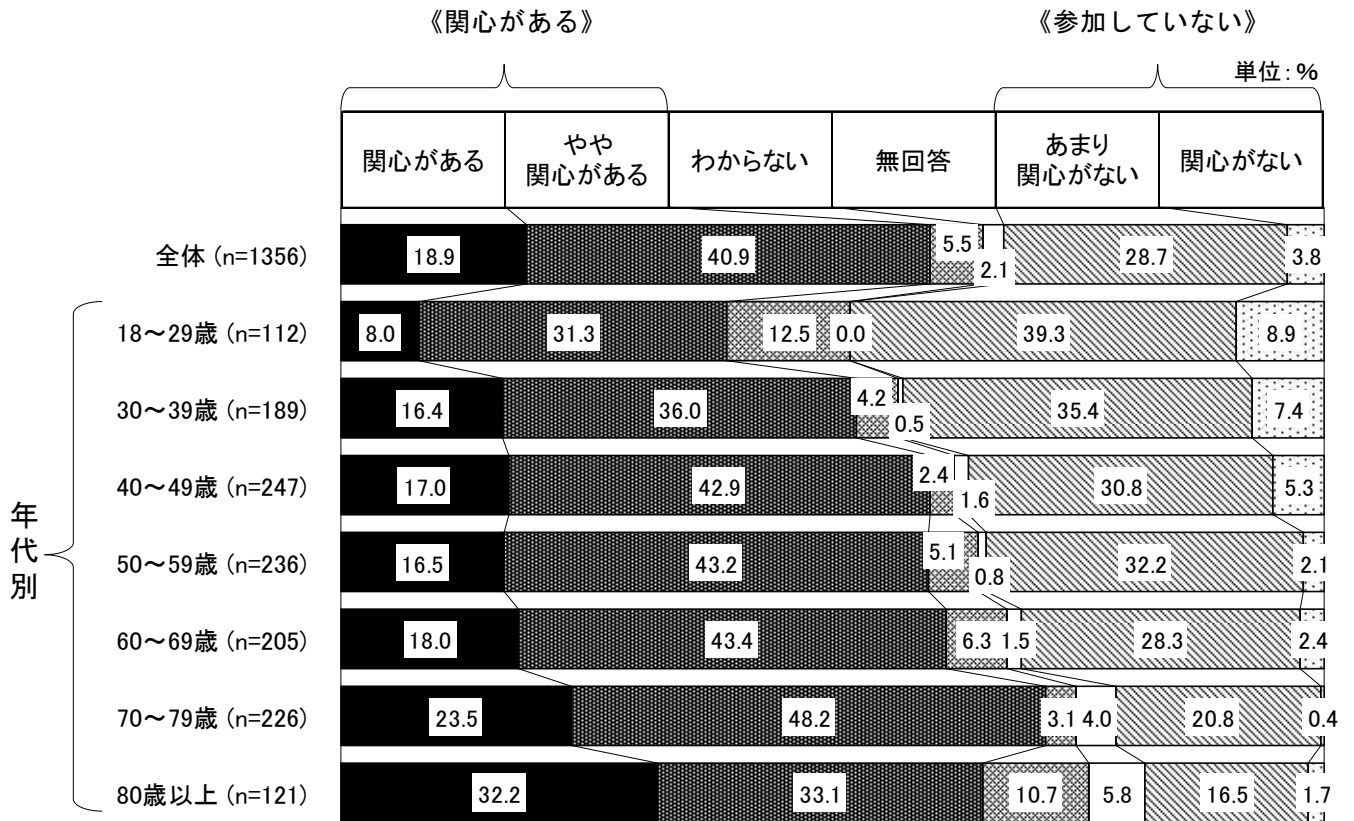


※昨年度

関心がある	16.1	56.0
やや関心がある	39.9	
あまり関心がない	28.7	36.1
関心がない	7.4	

年代別で見ると、《関心がある》では70～79歳（71.7%）が7割強で最も高く、次いで80歳以上（65.3%）が6割半ばとなっている。一方、《関心がない》では18～29歳（48.2%）の割合が高く、5割近くとなっている。

区政への関心 年代別



設問：区が行っている事業のうち、「今後、特に力を入れてほしいと思うもの」を5つ選んでください。

【過年度比較】

過去の結果と比較すると、「地震・水害などの防災対策」は令和元年度を除き、第1位となっている。また、「地域防犯の取組」、「高齢者福祉の充実」は順位に多少変化があるものの、常に上位に挙げられている。

単位：％

年度	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		第6位		第7位	
令和3年	地震・水害などの防災対策	64.0	地域防犯の取組	32.8	子どもの安全対策	29.2	高齢者福祉の充実	27.1	幼児・児童の子育て支援の充実	18.1	感染症対策の充実	17.4	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	17.0
令和2年	地震・水害などの防災対策	58.2	地域防犯の取組	31.2	感染症対策の充実	25.3	子どもの安全対策	24.7	高齢者福祉の充実	24.3	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	19.7	幼児・児童の子育て支援の充実	17.7
令和元年	高齢者福祉の充実	35.8	地震などの防災対策	34.7	幼児・児童の子育て支援の充実	23.9	子どもの安全対策	19.2	地域防犯の取組	19.0	学校教育の充実	18.1	健康づくりなどの保健衛生施策の充実	17.3
平成30年	地震などの防災対策	37.6	高齢者福祉の充実	25.8	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	24.3	地域防犯の取組	23.9	魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進	23.3	幼児・児童の子育て支援の充実	21.6	道路・交通網の整備	19.5
平成29年	地震などの防災対策	31.0	高齢者福祉の充実	28.4	幼児・児童の子育て支援の充実	24.1	道路・交通網の整備	20.7	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	20.5	地域防犯の取組	20.1	公園の整備充実・緑化の推進／魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進	19.3
平成28年	地震などの防災対策	37.0	高齢者福祉の充実	31.7	幼児・児童の子育て支援の充実	24.9	地域防犯の取組	22.2	子どもの安全対策	20.4	公園の整備充実・緑化の推進	19.6	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	19.0
平成27年	地震などの防災対策	31.8	高齢者福祉の充実	31.4	幼児・児童の子育て支援の充実	23.5	子どもの安全対策	21.9	地域防犯の取組	21.7	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	19.4	学校教育の充実	18.4
平成26年	地震などの防災対策	40.9	高齢者福祉の充実	35.7	幼児・児童の子育て支援の充実	25.3	地域防犯の取組	21.8	学校教育の充実／子どもの安全対策			18.2	公園の整備充実・緑化推進	18.1
平成25年	地震などの防災対策	38.6	高齢者福祉の充実	31.6	地域防犯への取組	24.3	幼児・児童の子育て支援の充実	21.8	子どもの安全対策／公園の整備充実・緑化推進			19.0	学校教育の充実	18.9
平成24年	地震などの防災対策	37.3	高齢者福祉対策	29.3	地域防犯への取組	21.0	幼児・児童の子育て支援対策	19.3	子どもの安全対策	18.3	学校教育の充実	18.0	公園の整備充実・緑化対策	15.3

ライフステージ別にみると、「地震・水害などの防災対策」（全体1位）はいずれの段階でも第1位に挙げられている。また、「感染症対策の充実」（全体6位）は家族形成期、家族成長前期では上位に挙げられていない。

今後、区に力を入れてほしい事業（上位7位） ライフステージ別

単位：%

区分	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位
全体	地震・水害などの防災対策 64.0	地域防犯の取組 32.8	子どもの安全対策 29.2	高齢者福祉の充実 27.1	幼児・児童の子育て支援の充実 18.1	感染症対策の充実 17.4	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実 17.0
家族形成期	地震・水害などの防災対策 61.8	子どもの安全対策 48.5	幼児・児童の子育て支援の充実 47.3	地域防犯の取組 32.7	学校教育の充実 25.5	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実 19.4	公園の整備充実・緑化の推進 18.2
家族成長前期	地震・水害などの防災対策 56.8	子どもの安全対策 52.3	学校教育の充実 37.8	地域防犯の取組 31.5	幼児・児童の子育て支援の充実 30.6	道路・交通網の整備 20.7	公園の整備充実・緑化の推進 16.2
家族成長後期	地震・水害などの防災対策 64.2	子どもの安全対策 39.6	地域防犯の取組 36.8	高齢者福祉の充実 24.5	感染症対策の充実 17.9	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実 16.0	幼児・児童の子育て支援の充実 14.2
家族成熟期	地震・水害などの防災対策 74.1	地域防犯の取組 42.0	子どもの安全対策 25.9	高齢者福祉の充実 24.7	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実 23.5	感染症対策の充実 18.5	低所得者に対する福祉の充実 17.3
高齢期	地震・水害などの防災対策 67.3	高齢者福祉の充実 47.7	地域防犯の取組 35.0	感染症対策の充実 24.3	低所得者に対する福祉の充実 23.8	バリアフリー化の推進 22.0	子どもの安全対策 21.0
（一人暮らし） 高齢期	地震・水害などの防災対策 59.3	高齢者福祉の充実 45.1	低所得者に対する福祉の充実 30.1	子どもの安全対策 26.5	地域防犯の取組 23.0	感染症対策の充実 22.1	バリアフリー化の推進 14.2
一人暮らし	地震・水害などの防災対策 66.0	地域防犯の取組 37.2	騒音・ボイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実 23.7	子どもの安全対策 20.5	バリアフリー化の推進 17.9	魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進 16.7	感染症対策の充実 16.0
その他	地震・水害などの防災対策 63.7	地域防犯の取組 30.2	高齢者福祉の充実 28.5	子どもの安全対策 21.5	低所得者に対する福祉の充実 17.3	感染症対策の充実 16.8	バリアフリー化の推進 16.6

**第 46 回 荒川区政世論調査
《概要版》**

—— 令和 3 年度 ——

令和 4 年 4 月 発行

登 録 (03) 0127
発 行 荒川区区政広報部秘書課
東京都荒川区荒川 2-2-3
電話 03-3802-3111 (代表) 内線 2161